

編集後記

盛夏の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より『日本學刊』の編集・刊行に際しまして、多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本号『日本學刊』第 29 号には、論文 3 編、研究ノート 1 編、実践報告 2 編、報告 1 編、エッセイ 1 編、計 8 編を掲載しております。日本語教育の実践的課題、日本語習得研究、言語研究、生成 AI をめぐる教育的検討など、幅広い分野にわたる論考が寄せられ、現在の日本語教育・日本語研究が有する多様な関心や課題を映し出す内容となりました。

エッセイでは、日本語教師としての長年の実践を振り返りながら、香港の日本語教育の歩みを個人史の視点から捉える試みが示されています。また、実践報告では、初級日本語学習者の文の産出における課題や、体験型授業を通したコミュニケーション力育成に対する学習者の認識について、調査結果をもとに丁寧な分析が行われており、教育現場にとって多くの示唆が得られています。

さらに、研究ノートおよび論文では、日本語教師と生成 AI の関係、学習者の文字背景の違いが漢字語彙産出に及ぼす影響、中国古典文学作品の日本語訳における数量詞の意味用法、日本語学習者の意見文執筆プロセスにおける情報活用など、多様な観点から言語と教育が論じられています。いずれの論考も、それぞれの対象や方法に即して検討がなされており、日本語研究および日本語教育研究のさらなる深化に寄与するものと考えております。

本号の編集および査読にあたりましては、ご多忙の中、丁寧にご協力くださいました査読者の先生方に深く感謝申し上げます。また、貴重な研究成果をご投稿くださいました執筆者の皆様にも、心より御礼申し上げます。本誌が今後も、日本語教育・日本語研究に携わる研究者・実践者の交流の場として機能し続けることを願っております。引き続き、多方面からの積極的なご投稿を心よりお待ちしております。

皆様の今後のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

日本学刊編集委員会委員長 郭穎俠
2026 年 6 月 吉日